

Sample

# 高1 国語総合

駿台国語科編

2010 / 2011 冬期

学内限り 駿台予備学校

平成22年12月発行

Sample

日本文藝家協会著作権管理部承認済

\*社団法人日本文藝家協会の著作権委託登録者の著作物については包括的な使用許諾を得て掲載しています。

## はじめに

皆さんのほとんどの人は、高校に入学してから古文というものを本格的に学び始めたことと思いますが、それから、八カ月以上が過ぎようとしています。きつと、この八カ月でしっかりと学力を身につけた人もいます。思いますが、そうでない人も多いことでしょう。それどころか、すっかり古文嫌いになってしまった人もいます。かもしれませんね。

しかし、得意だと言う人も苦手だと言う人も、皆さんの古文学習は、まだスタートしたばかりなのです。これからが大事です。この冬期講習で合理的な読解法、正しい学習法を身につけて、三学期以降の勉強につなげていきますように。

読解法や学習法に関する詳細は、担当講師の方から指示があると思いますが、大事なものは、皆さんのやる気です。必ず予習をしてきて下さいね。古語辞典を引きまくり、このテキストの付録の文法資料なども活用して、なんとか設問の答えを出し、問題文を解釈する努力をしてみましよう。自分で辞書を引き、自分で考え、自分で訳すという努力なしに、学力をつけることなど不可能なのです。

この講習をきっかけにして、皆さんが古文を得意科目にし、少しでも古文を好きになってくれるよう祈っています。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、男ありけり。人のむすめを盗みて、武蔵野へ率<sup>a</sup>て行く<sup>b</sup>ほどに、

盗人<sup>ぬすびと</sup>なりければ、国の守<sup>かみ</sup>に搦<sup>つか</sup>められにけり。

女をば草むらの中に

置<sup>d</sup>きて、逃<sup>に</sup>げにけり。道来る人、「この野は盗人<sup>①</sup>あり」とて、火  
つけむとす。女わびて、

武蔵野は今日<sup>②</sup>はな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり

と詠みけるを聞きて、女をばとりて、ともに率<sup>e</sup>ていにけり。

〔伊勢物語〕——第十二段

5

(注) ○道来る人——道を追って来る役人。

○若草の——「つま」にかかる枕詞。「つま」は、「妻」をも「夫」をも意味する語だが、ここでは「夫」の意味。なお、枕詞は原則として訳出しないで良い。

問一 傍線部 a～e の動詞の活用の種類 (何行何活用) とそれぞれの活用形を答えなさい。

問二

内 (「盗人なりければ」) に含まれる助動詞をすべて終止

形で答えなさい (但し、同じ助動詞が二度出てくる時は、一度答えればよい)。また、その助動詞の意味に注意して現代語訳しなさい。

問三 傍線部①、②を現代語訳しなさい。